

【芸術文化センター】のサウンディング調査実施結果

1 参加事業者数 10 者

2 サウンディング調査結果の概要

サウンディング調査において、参加事業者からいただいたご意見等の概要は以下のとおりです。

応募の検討について
①施設規模が大きく、業務が多岐に渡るため（主な業務：施設管理、公演事業、楽団事業等）、民間業者1者での参入は難しい。
②応募の分野、JV（共同事業体）による応募を検討する必要があるが、公演事業及び楽団事業で組める業者が見当たらない。
③貸館については、大阪のホール（フェスティバルホール等）と競合することとなり、利便性、キャパシティ等により大阪に負けてしまうだろう。
指定管理業務の範囲について
①公演事業・楽団事業は、事業内容や規模の水準が高く参入は難しい。
②建物管理、貸館業務のみであれば応募できると思うが、指定管理者からの委託で仕事を受ける方が、コスト、リスクともに負担が少ない。
③現状の業務を安易に分割して競争させる方法は、かえって運営を混乱させかねない。
応募条件等の内容について
①応募の検討に時間を要するため、公募の指定管理業務内容を早めに公表してほしい。
②現実問題として、請負側の体制構築に時間がかかる上、引継も相当期間が必要である。
③県として、どう運営していくのかを明確に決めてから公募に出すべき。安易に公募という競争原理に走ると、サービスの低下や現在の高い評価に影響するなどリスクが大きい。
④公募の際には、収支状況をもっと明らかにしてほしい。
⑤専門性が高い分野のため、現在の人員はできるだけそのまま継続雇用したい。
その他意見
①日本一の劇場と言っても過言でなく、他の劇場運営の見本となる施設である。現在の施設稼働率、公演実績などの施設評価を見ても問題点が見当たらない。
②公立施設として、驚異的な公演数・入場者数等を誇る施設である。同等レベルでの運営は困難。仮に、参入することでホールの質、公演のレベルが低下すれば、業界での評価が下がり、会社のイメージダウンとなるなどリスクが高い。
③施設管理の実績を活かして、施設の長寿命化、エネルギー削減等に柔軟に対応するほか、ロビー等共有スペースを活かしたイベントの開催など、地域のにぎわいづくりを提案したい。
④他府県公立ホールの見本となる劇場である。民間が全部やれるとは思えない。また、経費面では、現状の水準のままの公募であればコストダウンは困難で、人員配置等で無駄がないか検討するが、どこまでできるか課題である。

- ⑤これまでも地域に親しまれてきた施設ではあるが、今後さらに、文化に興味のなかった人へも魅力を広げられるよう地域活性と文化をつなげるイベントや広報を提案したい。
- ⑥現在の機能に魅力をプラスするイメージで、装飾や空間演出を工夫し、売店等でのグッズ販売、通販、イベントや広報等に関して提案したい。

担当者：企画県民部県民生活局芸術文化課 長谷
TEL：078-362-3146
メール：geijutsubunkaka@pref.hyogo.lg.jp